



先般4月に行われました、富山県議会議員選挙におきまして、皆様方のご理解と力強いご支援により当選をさせていただきました事に対し、先づもって御礼を申し上げます。

新人での無投票当選は、滑川市制施行以来、例が無く、今回の無投票での当選を私自身重く受け止めさせて頂いております。今後4年間、皆様方のご信託に応えるべく、これからの時代を支え創る青年としての政治参画の志を忘れず、常に皆様方と目線を同じくして、住民参加の政治の実現を目指し、また市内105ヶ所で開催させて頂いた“語る会”において頂戴しました、ご意見の具現化に向け、全力で県議会議員の職務を全うして参る所存でございますので、今後もより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

神田 真邦

富山県議会議員の任期開始日である、4月30日に富山県議会組織議会議が開催されました。

当日は議事堂受付にて議員記章を頂き、県議会議員の重責を全身に感じながら、本会議に臨みました。今回の組織議会議では、正副議長選挙、常任委員会の配属並びに正副委員長の選任等が行われ、今後4年間の富山県議会の体制を決定致しました。



私自身は、関係各位のご理解、ご協力により、自由民主党富山県議会議員会（通称自民党議員会）に所属させて頂き、常任委員会配属においては、厚生環境常任委員会へ配属されました。また同時に厚生環境常任委員会副委員長に選任頂き、同年令であります上田英俊委員長と共に“38才コンビ”によります委員会運営を、今後行って参る事になりました。

今回配属となりました、厚生環境常任委員会は、厚生部及び生活環境部を所管し、福祉全般や県民生活、環境など管轄分野が幅広く、大変やりがいのある委員会です。今後、皆様の声を委員会に反映させて頂く所存ですので、皆様のご意見ご要望をお聞かせ下さい。



# 平成15年6月 富山県議会定例会報告



6月16日から6月27日の12日間、富山県議会6月定例会が開催されました。

今回の定例会においては、私自身初めての一般質問の機会を頂き、以前より訴えて参りました、“少子化問題”と“中心市街地活性化”の2本柱から8つの質問を知事並びに県幹部の方々に投げかけました。質問に対する答弁などは要旨を下記にまとめましたのでご参照下さい。質問内容及び答弁内容も含めて、未だ未だ勉強不足と痛感致しております。今後も住民ニーズに沿った質問が出来るよう、努力して参ります。

**Q1** 少子化問題に対する知事の所見並びに抜本的解決に向けた、知事部局内専門部署設置の考えはないか、(知事に)問う。

**A1** 多様な要因を含む少子化問題解決に向け全力を挙げたい。現在関係部署の連携を強めており、現体制で施策を進めていく。

**Q5** 幼保一体型施設支援モデルにおける、運営内容及び教育要領と保育指針の整合方法を、(厚生部長に)問う。

**A5** 年齢により保育所・幼稚園と区別し、制度的制約の中、最大限の工夫をしながら、要領・指針の効果的運用を実施している。

**Q2** 出生率の低下を受け、当事者世代への意識変革・啓発事業への取組みを今後どのように充実していくのか、(厚生部長に)問う。

**A2** 家庭や子育てに夢や安心感を持てるよう各種事業を展開する予定である。国とも連携し、啓発事業の充実等に努めて参りたい。

**Q6** 事業所内保育施設運営助成の事業拡充と、近隣幼稚園等との連携による、新たな保育ニーズへの助成制度を検討すべきだが、(商工労働部長に)問う。

**A6** 助成制度の拡充並びに新たな制度に関し、利用状況や県民ニーズを勘案しながら、今後、鋭意検討、研究して参りたい。

**Q3** 中高生に対する少子化問題への意識啓発に対して、教育現場ではどのように取組んでいるのか、(教育長に)問う。

**A3** 県教委では少子化を次世代の中高生の生き方に関わる問題として考えており、社会科を中心として将来設計等の学習を推進している。

**Q7** 中心市街地活性化事業が、地域の独自性あふれたものとする為に、国庫補助対象整備事業の拡充を国に働きかけるべきと考えるが、(商工労働部長に)問う。

**A7** TMO関連の支援に関しては、市町村の取組みに対し積極的に支援していきたい。又、具体的計画があれば協力、検討していく。

**Q4** 幼保一元化に向けた研究事業が進められているが、幼保一元化の定義と教育要領及び保育指針の整合性を併せ、(教育長に)問う。

**A4** 定義に関しては明確に定まっていないが、要領及び指針の教育に関わる部分は共通しており、連携事業を推進して参りたい。

**Q8** Q7に対し、市街地の整備に関してはどうか、(土木部長に)問う。

**A8** 既存の事業助成の活用を図っていただくと共に、具体的な要望等に関しては国に働きかけるなど協力をして参りたい。

## 厚生環境常任委員会

6月11日に第1回目の厚生環境常任委員会が開催されました。当局より報告事項の説明があり、その後、厚生環境行政の当面の諸問題について質疑に入りました。私も議員としての初質問を本委員会においてさせて頂きました。(大変緊張を致し、手が震えました。)

主な質問として、少子化問題に対する部長所見・延長保育と家庭教育の整合に向けた取組みについて。在宅介護におけるホームヘルパー資格取得者の就業状況並びに、実働に向けた取組みについて等、質問をさせて頂きました。



6月26日、定例会開催中の常任委員会です。23日に一般質問を終え、度胸が付いた訳でもないのですが、今回の委員会では手も震える事なく、当局と論戦をする事が出来ました。

今回は3点の柱から質問を致しました。

1. 中央病院における医師異動に伴う、通院患者さんへの通知に対する取組みについて
2. 伝統産業である“売薬さん”等に対する規制緩和の中での支援について
3. 芸術文化振興の為に、芸大出身者等の活動の場確保と県民参加の活動団体の創設に向けた取組みについて、であります。

## 6月定例会を終えて

12日間の定例会を終えて、率直な感想は、もっともっと住民の皆さんと膝を合わせて、論議を行い、住民ニーズを県当局に知ってもらう必要があると痛感致しました。県職員の方も、勿論地域住民の1人ではあるのですが、ともすれば、国の制度・県の制度に縛られ、本当に必要な施策が行えない状況も、垣間見えました。真の地方自治の実現。自己責任、自己決定を行っていくには、地域住民の考えを的確

に捉え、そのニーズに応じていかなければなりません。その為にも国と地方自治体の在り方も含め、地方分権の推進と住民段階からの各種政策論議の必要性を実感すると共に、県議会議員として、積極的に住民参加の取組みを創っていかなければならないと感じております。

今後、県政の課題を私なりに噛みくだきながら、皆様に説明をさせて頂き、それぞれの課題について議論を進めていきたいと考えております。その上で、次回9月定例会において、住民ニーズを訴えて参ります。

## 真邦日誌

議員の任期を頂いてからの、出席した主な諸会議、会合等を紹介させて頂きます。

4月30日 富山県議会組織議会

5月2日 にかわ養護学校教育振興会

5月9日 自民党政調会文教公安部会

※自民党議員会所属の議員は政調会の部会に入り、それぞれの課題について研究を行います。私は今後2年間、文教公安部会において、教育問題や警察関係について、研究研修に努めて参ります。

5月19日・21日 新人議員県内行政視察

5月22日 3市3町選出議員による8号線バイパス建設促進要望(新潟市)

5月23日 正副委員長会議

5月29日 とやま森の祭典

6月2日 文教公安部会

6月9日 建設企業委員会傍聴

6月11日 厚生環境常任委員会

6月12日 正副委員長会議・21世紀の会勉強会

6月16日～27日 6月定例会

## まさくにの 独り言

議員として初登庁してから、最近疑問でならない事が一つありました。よく国会関係のニュースの中で議員の方が登壇ランプを押しておられる映像がありますが、県議会においても、同様なランプ掲示板があります。私自身、国会での風景が頭にありましたから、当然本人が、ランプを付けるものだと思います。いつも登庁したら、ランプの所へ行ったのですが、いつも既にランプが点灯しているのです。だれが付けるのか不思議でなり

ませんでした。私と同様に自民党同期議員の皆さんも不思議だったらしく、ある日、控え室でその話題になっていた時、先輩議員の方から、“あれは受付の方が、出退時にランプの操作をしているんだよ”と教えて頂き、一同なるほどと納得を致しました。

私は今回初めて政治に参画を致しましたので、このような議会の多様な慣例等に驚きの毎日ですが、“慣れる”のではなく、常に疑問を持ちながら、住民の観点で今後も議員活動を行っていく所存ですので、ご指導をお願い致します。



後援会並びに市民のみなさま方には、平素よりかんだ真邦に対し格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

大変遅くなりましたが、4月の統一地方選挙富山県議会議員選挙におきましては、皆様方のご支援、ご協力のおかげで、無投票選挙ではありましたが県議会へと進ませて頂きました。かさねて感謝と御礼申し上げます。

さて、当後援会ではかんだ真邦が掲げる「市民の目線にたった政治の実現」を基本に滑川市、富山県をかんだ真邦と共に創り、変えて行くべく滑川市内各地区の後援会組織作りを進めております。是非、これを機に後援会に入会して頂きますようお願い申し上げます。

現在、かんだ真邦は新人議員として、精力的に公務に勤しんでおります。今後も皆様方と共に明るい、豊かな滑川市、富山県創りに邁進させていただきますので、引き続きご支援、ご尽力賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶にかえさせていただきます。

佐々木 敦



左胸にバッジを着けて彼の気持ちの中では、早3ヶ月、まだ3ヶ月だろうか。政治への道に足を踏み入れたばかりの彼が、今後どんな活躍を見せてくれるだろうか。期待と不安、半信半疑と言うのが正直なところだ。しかし、政治家として完成された人が必ず私達の期待に応えてくれると言えるだろうか。政治経験が無いから気付く事、恐れを知らず出来る事があるはずだ。私達の年齢は丁度今人生の折り返し地点。若者の声、人生の先輩方の声を聞ける歳。市民の声、県民の声、どれだけの声に謙虚に耳を傾けられるかが、彼の仕事ではないか。この先ベターを選択しても、それがベストの答えでない事に悩む事もあるだろう……。

滑川市のただ一人の県議、神田真邦として働ける喜びを噛み締めて頑張りたい。

二川 隆次



皆さん、こんにちは、日頃より神田真邦後援会活動に対しまして多大なご理解とご協力を頂き大変ありがとうございます。皆様には、昨年12月来、神田真邦後援会の活動を通して大変お世話になっております。

神田県議本人とは、同じ年齢であり青年会議所活動を通して知り合い、共によく似た境遇ということで仲良くなり、彼の考え方や行動力に共鳴し応援させていただいております。

私自身、後援会活動というのは、初めてでございます。何からやっていいのか全く解らない手探り状態でございます。皆様方には、深いご理解と暖かいご協力の下、神田県議同様、共に成長していきたいと考えております。今後ともどうかよろしくおねがいします。

石坂 厚志



昨年末より本年4月に行われた県議会議員選挙に向けて神田真邦さんの応援、そして選挙に向けて後援会メンバーとして初めて政治の世界に少し触れることとなりました。若い私達の世代

が住むこの滑川、そして富山県が今後どのようにしていかなければならないか興味を持ち意見していかなければなりません。今回、私達の代表として富山県議会議員に若い神田真邦さんが選ばれました。多くの先人が築き上げてきた歴史を重んじると共に今の激動の時代において先を見定めながら行動されている神田さんを応援していきたいと思っております。そして神田真邦後援会青年部長として青年の多くのご参加を頂けるよう又、その中でご意見等を多く頂けますよう努力すると共に皆様にご理解とご参加、ご協力をお願いいたします。

細川 英治